

■ 中間考査に向けて

5月22日(月)から5月25日(木)までの期間で、1学期中間考査が実施されます(※学年、コースによって若干日程が異なるので注意!)。3年生にとっては、進路決定につながる大事な考査になります。しっかりと準備をして臨みましょう。1年生にとっては高校入学後初めての定期考査になります。特に3年生になって推薦で大学等への進学を希望する場合には、評定平均値が大事な要素になります。今から少しずつ積み重ね、3年生になってから後悔しないようにしましょう。当然のことながら、2年生のみなさんもしっかりと学習に取り組んで臨むようにしましょう。基礎学力の定着を図ることが進路を決定させていくことになりますので、自覚的に学習に取り組むようにしてください。例年、3年生から、「1年生のときから、しっかりと考査前に学習しておけば良かった」という声が聞かれます。後悔しなくて済むように、計画的に学習を進めていくことが大切です。みなさんのがんばりに期待します。



■ 3年生の進路アンケート結果

下の表は、4月に実施した3年生の進路アンケートの結果をまとめたものです。3年生137名のうち、135名から回答がありました。アンケート回答時点で、大学進学か専門学校進学か、進学か就職か・・・などで悩んでいると思われる複数の回答があったものについては、全体的な記載内容から判断したものもありますし、特に同等と思われる場合には、大学と専門学校であれば大学を、大学なり専門学校なりの進学か就職かであれば進学を第1希望で考えてあるものとして集計してあります。当然ですが、最終的な進路希望、進路決定先は現時点での希望と異なっても構いません。少しでも希望の進学や就職が達成できるよう、学校としてもサポートしていきますので、みなさんも早くから対策をしていくよう心掛けてください。分からないことなどがあれば、そのままにせず、どんなことでも担任の先生なり、進路指導部の先生に早めに相談しましょう。



現時点でのあなたの進路希望は？	希望者数
4年制大学進学(東日本国際大学進学希望を含む)	73名(22名)
短期大学進学(いわき短期大学進学希望を含む)	2名(2名)
専門学校進学	29名(11名)
就職	28名(9名)
その他	3名(1名)

■卒業生の合格体験記

昨年度卒業生の合格体験記です。今回は公立鳥取環境大学に進学した永山芽李さんと佐藤勇晏さんです。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 永山芽李さん（昨年度3年4組）
公立鳥取環境大学環境学部環境学科合格
東京農業大学生物産業学部北方圏農学科合格
東京農業大学生物産業学部海洋水産農学科合格

私はコロナのためオープンキャンパスには参加できませんでしたが、大学に連絡を入れて個人で大学見学をさせてもらったことや、オンラインオープンキャンパスで教授の方と一対一で対話することにより興味を持ち、高校2年生の後半に公立鳥取環境大学の環境学部を第一志望にしました。



私は学校推薦型と一般入試前期の2つの試験を受験しました。そのため、2年生の後半から推薦入試の問題を解き始めました。はじめは知らない内容のものが多かったので、先生に質問したりインターネットや書籍を読みながら問題を解き進めたりすることで環境に関する知識や小論文の書き方を覚えていきました。

共通テストの対策としては、倫理はまず人名とその人に関わる事柄をノートにまとめ、問題を解くごとに改めて知ったことを書き足していきました。そして、数学は今までに解いた小テストを解き直すことで復習しました。

一般入試の二次試験に向けては、受験科目が生物だけだったので過去問を9年分解き、その後他校の過去問を多く解くことで問題の解き方や解答の仕方、基礎の問題を復習していきました。

受験をして感じたこととしては、今まで足を引っ張ってきた教科が時には自分を救ってくれることがあるということです。苦手教科だからといって手を付けずにいるのではなく、少しでも手を付けてみると意外と得意科目が見つかるかもしれません。みなさんも志望校合格に向け、あきらめずに頑張ってください。

【合格体験記】 佐藤勇晏さん（昨年度3年5組）
東北工業大学建築学部建築学科合格

私は指定校推薦で東北工業大学を受験し、合格することができました。東北工業大学は2020年に東北地方で唯一の建築学部として独立し、文系・理系にとらわれない、より総合的な学びの場となりました。また、学習環境が整っており、就職にも強いなど、様々な魅力を感じたため、建築士になり社会に貢献するという目標を達成するために非常に良い環境であると思い、受験することを決意しました。

（裏面へ続く）

試験の内容は、面接とプレゼンテーションでした。プレゼンテーションは、自分の好きな建築家について発表しました。日頃から数多くの建築物や建築家についての情報を集め、試験日の一か月以上前から情報科の先生に手伝っていただき、プレゼン資料を作成し始め、二週間以上前からは、先生やクラスメイトの前で発表し、様々な意見やアドバイスをもらいました。そのおかげで、本番ではその成果をしっかりと発揮することができました。



また、私は大学での特待生制度で学費免除の得点を得るために、共通テストの国語・数学ⅠA・英語の三科目を受けました。部活後に第二校舎に行き、先生に指導していただいたり、休日も勉強に時間を費やしたりしました。模試は自分たちが授業で取り組んでいるものよりもはるかに難しく、成績も散々な結果ばかりでした。部活との両立も大変で、周りに共通テストを受ける人がいなかったのも、モチベーションを保つのが本当に大変でしたが、友人や先輩から刺激を受け、なんとか最後まで諦めずに勉強を続けることができました。共通テスト本番では、最初に受けた模試から100点以上も点数を伸ばすことができました。

結果がどうであれ、これまで頑張ってきた経験や積み重ねてきた学力は、これからの人生に必ず役に立つと思います。勉強することは、進路の選択肢や自分の可能性を広げてくれるので、1・2年生は、早めのうちから勉強の習慣を身につけることが大切だと思います。これまでサポートしてくださった先生方や友人には本当に感謝しています。ありがとうございました。

■ 日本学生支援機構奨学金について

大学、短期大学、専門学校などへの進学を希望している3年生で、日本学生支援機構奨学金の予約採用を希望する者への説明会を5月10日（水）および5月11日（木）の昼休みに実施しました（※5月17日（水）にも実施予定）。いずれかの説明会に参加し、その話に従って進めていただければと思います。3年生の保護者の皆様にもBLENDで、大まかな流れ、提出書類、応募資格（※成績等）、マイナンバーの提出方法などをまとめた文書を配信しておりますが、よく参考になさったうえで、申込書類等をご準備いただきますようお願いいたします。



学校での入力（※スカラネット入力）期間が限られた日程になっていますが、必ず都合をつけたうえで入力作業をするようにお願いします。その際、必ず下書きを忘れないようにしてください。例年、「希望する奨学金」、「世帯の状況」、「生計維持者の情報」などが分からなくて、入力が滞ってしまうケースが見られます。下書きは細かければ細かいほど良いので、保護者の方に書いてもらうようにしましょう。なお、学校での入力については、事前の決められた期間（※校内受付期間）に申込書類を提出し、OKが出ていることが前提となりますので、ご承知おきください。

■ 音楽家・坂本龍一さんについて



3月に音楽家の坂本龍一さんが亡くなりました。2014年に癌(がん)を患っていることが発覚し、晩年は病気と闘いながらの音楽活動だったようです。筆者も印象に残る楽曲がいくつもあります。あまりにも偉大すぎてまとめるのが難しかったため、読売新聞のコラムを引用しました。1つ目は4月4日付朝刊の「編集手帳」、2つ目は4月4日付夕刊の「よみうり寸評」からです(※いずれもくゝ内)。4月3日に坂本さんが亡くなったとの報道があったことから、4月4日の紙面で大きく報じられていました。

〈三島由紀夫に『仮面の告白』を書かせた旧河出書房の坂本一亀(かずき)は情熱と執念、そして気骨ある編集者として作家に恐れられた。部下には「今日中ニコノ原稿ヲ読ム!」と軍人風の口調で命じた◆若き日の小田実は、新婚の坂本家に泊まり込んで原稿用紙に向かった。1951年、「直せ」「直さん」のすえ小説『明後日の手記』を上梓(じょうし)する。数か月後の翌年1月、一亀の長男として生まれたのが後に世界的な音楽家となる坂本龍一さんである◆温厚な気質な龍一さんも父親ばりの衝突を経験している。相手は映画「ラストエンペラー」のベルトリッチ監督だった◆編集段階で場面ごとの秒数が長くなったり短くなったり、ひっきりなしに変わる巨匠の指示に声を荒げた。「あなたが軍の指揮官だとしたら、こんなに命令が日々変わっては兵が何人死んでも足りない」。例えに軍人を持ち出した。そのとき、父の遺伝子を自身に見たかどうか◆ポップからロック、クラシック風の楽曲まで、人々の心を揺さぶる音符の誕生物語をもっと聞いてみたいけれど、龍一さんはもういない。まだ71歳という。旅立つには早い。〉(4月4日付読売新聞「編集手帳」より)

〈自らをドビュッシーの生まれ変わり信じ、筆跡をまねてサインの練習までしていたらしい。坂本龍一さんが振り返る少年時代の逸話である◆幼い頃から学んだ西洋音楽が体にしみこんでいるのだろう。テクノブームを巻き起こしたYMOの活動を経て、オーケストラ作品『ディスコード』を世に問うたのは1997年のことである◆ルワンダ紛争の報道に接して書き上げたその楽曲が一つの転機だった。戦争、難民、飢餓、そして環境問題へと思考を深め、〈生理的な危機感〉を覚えて行動していく(自伝『音楽は自由にする』)◆平和を求めて発言を続けただけではない。森林保全のプロジェクトを展開し、東日本大震災後は被災者支援にも力を注ぐ。東北の子らによる楽団の代表も務め、演奏会をオンラインで見届けた2日後、坂本さんが71年の生涯を終えた◆〈21世紀は…人類が少し賢くなれるのではないか〉。20世紀を総括したというオペラ『LIFE』に込めた願いを、希代の音楽家にして行動者の遺言として聞く。〉(4月4日付読売新聞「よみうり寸評」より)

「よみうり寸評」にあったように、坂本さんというと、戦争や災害の際に、さまざまな社会活動をしていた印象があります。坂本さんをそういった社会活動に突き動かした決定的な要因は、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロをニューヨークで目撃したことにあるようです。問題の解決とともに、「音楽が人々の活力につながれば…」という思いで活動していたように思われます。“Ars longa, vita brevis.”坂本さんが好んだ一節です。英語では“Art is long, life is short.”となり、「芸術は長く、人生は短し」を意味します。坂本さんには「テクノポップ」の草分け的な存在のイメージもありますが、ピアノ演奏による印象的な楽曲も数多くありました。それぞれの胸にそれぞれの形で印象に残っているものと思いますし、世代の違うみなさんの心にも響く楽曲が数多く存在しているものと思われます。71年という生涯は短かったと悔やまれますが、坂本さんの音楽は永遠に語り継がれていくことでしょう。

文責：清水聖(進路指導主事)